第28回脳神経外科手術と機器学会（CNTT2019）を岡山で開催して

Hosting the 28th Annual Meeting of the Conference on Neurosurgical Techniques and Tools (CNTT)

会長　伊達　勲（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科　脳神経外科学）

Isao Date (Department of Neurological Surgery, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences)

第28回脳神経外科手術と機器学会（CNTT2019）を2019年４月12日（金）と13日（土）の２日間，会長として岡山コンベンションセンターで主催いたしました（図１）．全国から500名を超える脳神経外科医が参加し，約200演題について３会場で活発な討論が行われました．例年通り，２日目には第12回日本整容脳神経外科学会（JSAN2019）を同時開催し，両者とも成功裏に終了しましたことを関係の皆様に深く感謝申し上げます．

CNTT は脳神経外科の新しい手術手技や手術機器について発表し学ぶ場として1992年に発足し，脳神経外科の臨床の現場に大いに寄与してきました．CNTT という名称は脳神経外科医の間に広く知られており，多くの動画での発表があることから，若手の脳神経外科医にも人気の高い学会です．

今回の学会のキーワードを「バランス」としました．機能温存や低侵襲に気を配りながら，どこまで根治性を求めた手術を行うかのバランスを脳神経外科医はいつも考えています．新しい機器とそれを使いこなす技術のバランスも大切です．「手術におけるバランス感覚 ― 機器と技術を生かす ―」を今回のテーマとし，そのテーマに沿ったシンポジウムを組みました．日本整容脳神経外科学会（JSAN2019）のテーマも「バランス」を考慮して「再建と整容のバランス」としました．図２に両者のポスター（プログラム・抄録集の表紙にも使用）を並べていますが，片方はメスの上に，もう片方はペアンの上にやじろべえが乗っている図で，参加の皆様に評判の良い図柄になりました．

今回の学会では映像の発展にも大変注目しました．特別企画１では，現在話題になっている exoscope（外視鏡）の手術について，「３D でみる exoscope 手術」というタイトルでとりあげました．Exoscope とは，顕微鏡と内視鏡の間にある存在で，実際の手術は３D メガネをかけ，目の前に置いた３D モニターを見ながら行う事から，heads-up surgery とも呼ばれています．これまで顕微鏡で行ってきた手術の多くが exoscope でも行える事が示されつつあり，今回の学会では現在日本国内で使われている４機種で行った手術の実際を，３D ビデオで続けて見る企画と致しました．本年が「Exoscope 元年」とも言われるだけあって注目度は

図１　会長挨拶（伊達　勲）

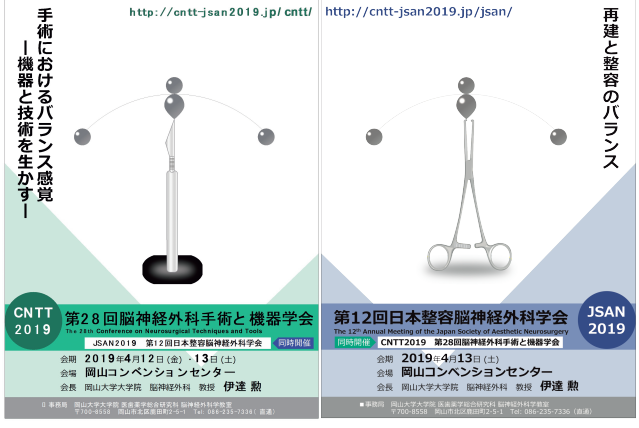

図２　CNTT2019ならびに JSAN2019のポスター

図３　「３Ｄでみる exoscope 手術」の特別企画を３Ｄメガネをかけて熱心にみている満員の聴衆．立ち見も出ている

図４　閉会式終了後，医局員全員で記念撮影

高く，図３のように，会場にはベテランから若手まで多くの医師が詰めかけ，３Ｄメガネをかけて画面に食い入るようにしてビデオをみていました．立ち見の方もかなりいることがわかります．

その他の映像の話題としては，特別講演で，東京大学先端科学技術研究センターの杉本真樹先生が VR/AR/MR によるバーチャル手術の実際を披露くださり，脳神経外科の分野にも脊椎のスクリュー固定や，血管内治療に使うカテーテルの形状作成などに生かされつつあることを教えていただきました．また，（株）オーベンの岡村学先生には，手術動画の作成の工夫について教育講演をしていただき，実際の手術ビデオ作成に役立つ情報をたくさん得ることができました．

特別企画２では，もう一つ「バランス」をとりあげました．それは，「研究と臨床のバランス」です．タイトルは「研究から臨床へ，臨床から研究へ：双方向のバランス感覚」として，２つの教育講演をしていただきました．一つは国立がん研究センターの浜本隆二先生による「日本メディカル AI 学会がめざすもの」，もう一つは岡山大学の堀田勝幸先生による「臨床研究法は何を変えるか」です．２つの教育講演のあと，現在進行中の臨床研究を３つ指定演題としてとりあげ，研究と臨床のバランス感覚が大切であることを学びました．

日本整容脳神経外科学会との合同シンポジウムを１つ設け，そこでは，１年かけて分析した「プレートや人工骨での合併症」の全国アンケート調査結果を報告し，それを元に論文化することになりました．

全体ではシンポジウム13，スポンサードシンポジウム２，合同シンポジウム１，特別企画２，特別講演，教育講演，とスケジュールはタイトとなりましたが，有意義な２日間になったと思います．最終日の閉会式のあと，医局のスタッフ全員で記念写真をとりました（図４）．

2020年10月15日（木）～17日（土）には岡山で日本脳神経外科学会学術総会を主催します．6,000名を超える参加者が見込まれますが，今回の学会での内容毎の各会場の参加状況などの分析も参考に準備を進めていきたいと考えています．皆様のご指導を今後ともよろしくお願い申し上げます．

平成31年４月29日受稿
〒700-8558　岡山市北区鹿田町２－５－１
電話：086-235-7336　Fax：086-227-0191
E-mail: idate333@md.okayama-u.ac.jp